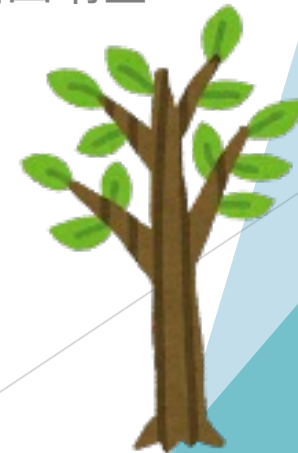


感染症内科

フェローシッププログラム
対象：卒後6年目以降の内科医師

感染症内科 医長 山田晴士

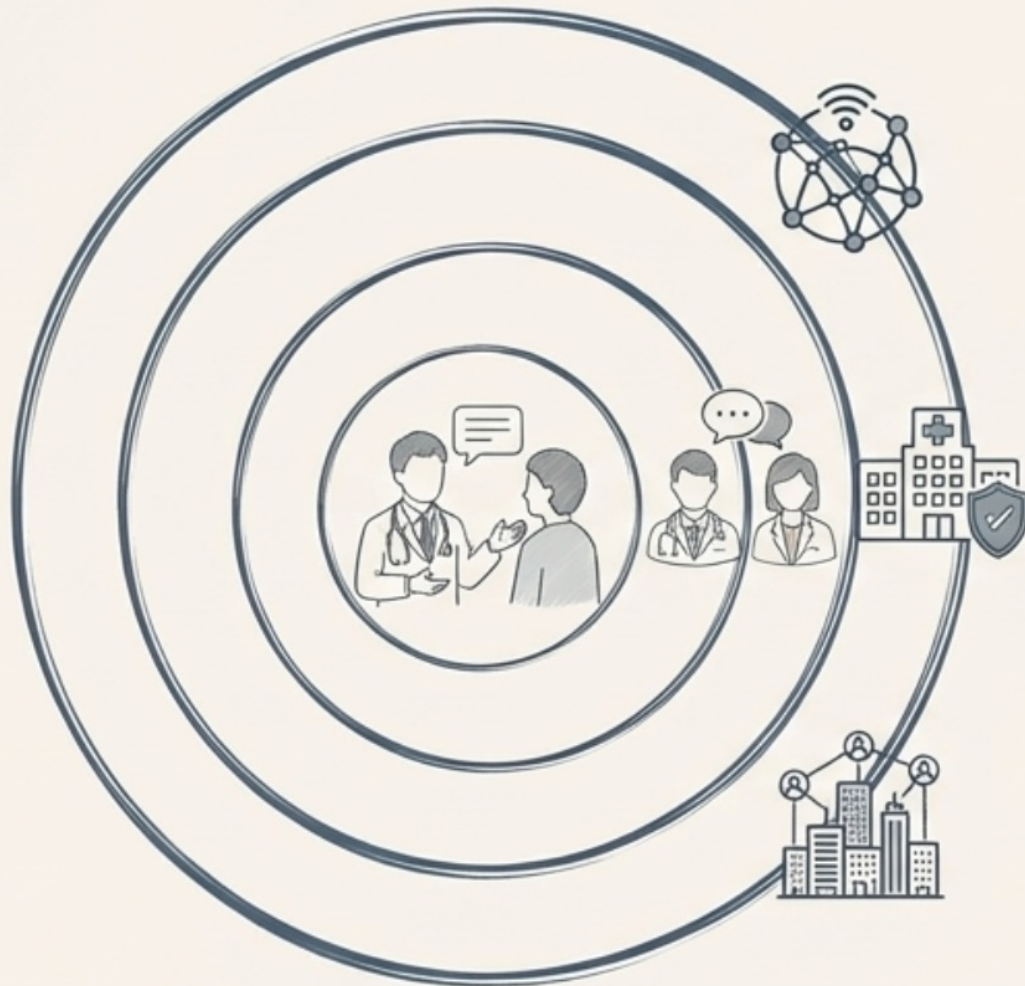


前提

- ▶ 日本感染症学会における専門医を取得することを目的としたプログラムです。専門医資格を得るため、**卒後6年目以降の内科医**であることを条件としています。
- ▶ 当院が目指す感染症専門医像は特定の臓器・領域に特化した専門医ではなく、**臓器横断的に診療ができるオールラウンダーとしての感染症専門医**です。
- ▶ 幅広い知識と経験、コミュニケーション能力、問題解決力に優れた医師になって頂くべく、**2～3年間のフェローシッププログラム**を用意しております。

日本感染症学会の専門医取得条件は、学会HPをご参照ください。
当院は日本感染症学会研修認定施設です。

眼の前の患者だけでなく、病院・地域に対して影響を与えられる医師を目指します。



- ① **For Patients:**
主治医として専門診療 (HIV・渡航感染症など)
- ② **For Doctors:**
院内コンサルタントとして全診療科を支援
- ③ **For Hospitals:**
感染対策(ICT)・抗菌薬適正使用(AST)のリーダー
- ④ **For Cities:**
地域全体の医療機関・保健所との連携ハブ

目標設定

	能力的目標	数値的目標
①	臨床感染症のコンサルテーションを1人で受け、解決に導くことができる。	年間コンサルテーション250例
②	感染対策について現場やICNの疑問に的確に応えられる。	感染対策に関する相談件数年間50例
③	ASTリーダーとなり血液培養陽性症例の治療成績を向上させることができる。	血液培養カンファレンス参加年間125回 (全250回：参加率50%)
④	感染対策に関する制度、チームとしての取り組みの概要を知っている。	感染管理室室会議出席12回（全24回：参加率50%）
⑤	感染症専門医を取得する。	学会発表年間1例、論文1本作成
⑥	社会人としての常識を身につける。	-

業務内容①

- ▶ 臨床感染症コンサルテーション（月20～30件）を受けながら、総合内科枠として入院主治医（同時6～7人程度）としての業務を行います。
- ▶ 週1回の内科初診外来、月数回の内科日当直にも入っていただきます。
- ▶ 必要に応じて内科再診外来枠も設けています。並行してワクチン外来を担当頂く場合もあります。

業務内容②

- ▶ ICT（院内感染対策チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）としても活動していただきます。
 - ▶ 毎日午後に実施しているASTカンファレンスに参加し、血液培養陽性例への介入を行います。
 - ▶ 毎週水曜日午後には勉強会も行っています。
 - ▶ 月1回、ICTラウンドに参加していただきます。
 - ▶ その他、ICT・ASTに関するイベントへの参加を促す場合があります。

学べること

- ▶ 全診療科からのコンサルテーションを受けることで、**臓器横断的な感染症診療スキル**を養います。
 - ▶ 疾患群の一覧は当院感染症内科のHPをご参照下さい。
- ▶ **他診療科医師とのコミュニケーション方法**についても学ぶ機会になります。
- ▶ 当院は第二種感染症指定医療機関であり、新興・再興感染症の対応を学ぶ機会もあります。
- ▶ 総合内科病棟において**全人的なマネジメント**を身につけられます。

スケジュール例

	月	火	水	木	金
8					
9	総内総回診	コンサル 新患	内科初診	オレンジカン ファ	コンサル 新患
10					
11					
12	休憩				
13	ASTカンファ	コンサル 新患	ASTカン ファ	コンサル 新患	ASTカンファ
14					
15			感染管理室会 議（月1回）	ICTラウンド（月1）	
16	総内sign out	コンサル 新患	総合内科 sign out	なんでも勉強会 1 on 1（月1回）	総合内科sign out
17					
18					

オレンジカンファ：複数診療科との合同勉強会

その他

- ▶ 定期的に感染症内科医長との面談を行います。
 - ▶ **1on1ミーティング**というマネジメント手法を行います。**専攻医の成長支援やモチベーション向上**を目的とし、月1回程度実施します。
- ▶ 学会発表・論文作成の支援体制も構築しています。岡山大学病院との連携もスムーズです。
- ▶ 妊娠・出産等のライフイベントと業務の調整も柔軟に行います。

当院のプログラムで学び
病院・地域に貢献できる
感染症内科医になりましょう！